



東京アマデウス合唱団
第32回定期演奏会

16～17世紀の
クリスマスと
新年の名曲

Tokyo Amadeus Chorus

同仁キリスト教会礼拝堂

2013年12月1日

東京アマデウス合唱団

指揮者 水野克彦

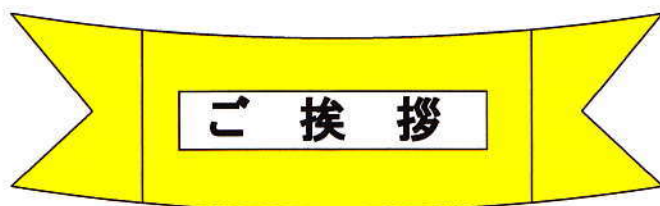


東京藝術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。藝大バッハカンタータクラブに在籍中、小林道夫氏の薫陶を受ける。日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。現在、茗荷谷キリスト教会オルガニスト。2000年から東京アマデウス合唱団の指導と指揮を担当。

- Sop1 辻村 順子、中西亜紀子
Sop2 繁松 緑、名阪雅美、平石 幸枝
Alt 大久保ルミ子、大友 美佐、大庭 裕子、
落合直子、堀江 和子、宮崎 米子
Ten1 小沢 仁、
Ten2 翁長良二、柿沼 晝、片岡 繁
Bass 大庭 敏彦、山村 道男、水野克彦(指揮者)



練習風景(2012. 10.8)同仁キリスト教会礼拝堂



本日はお忙しい中をご来場賜り、厚くお礼申し上げます。

今回は、会場等の都合から演奏会が12月になりましたので、クリスマスと新年に関係のある曲を演奏することと致しました。

なお今年は、団員と共に指揮者の水野先生にもご参加を頂き、全曲ア・カペラでの演奏に挑戦してみることとなりました。

お忙しい中をこの合唱団のためにわざわざご来場頂き、温かいご支援を下さる皆様方に励まされ、この演奏会を開催できることを大変嬉しく思っております。

音の環境が大変良いこの礼拝堂で、16～17世紀のクリスマスと新年の名曲の響きを、ゆっくりとお楽しみ頂ける様な演奏が出来ましたら幸いです。

東京アマデウス合唱団 団長 柿沼 哲

PROGRAM

(選曲 辻村順子)

Machet die Tore weit..... *Andreas Hammerschmidt(1612-1675)*

門を広くせよ

Canite tuba.....*Giovanni Pierluigi da Palestrina(1525-1594)*

ラッパを吹奏せよ

Die Himmel erzählen die Ehre Gottes(SWV386)Heinrich Schütz(1585-1672)

天は神の栄光を語り

Lobt Gott,ihr Christen,alle gleich.....*Leonhard Schröter(1540-1595)*

神を誉め讃えよ、汝らキリスト教徒らよ、皆等しく

Joseph,lieber Joseph mein.....*Johann Walther(1496-1570)*

ヨーゼフ、愛する私のヨーゼフ

O beatum et sacrosanctum diem.....*Peter Philips(1561-1628)*

おお、祝福された至聖の日に

Pastores,quidnam vidistis?.....*Jacob Clemens non Papa(1510 -1555)*

羊飼いたちよ

Ein Kind ist uns geboren(SWV384) *Heinrich Schütz(1585-1672)*

一人の御子が我らのためにお生まれになった

Hodie Christus natus est.....*Jan Pieterszoon Sweelinck(1562-1621)*

今日キリストがお生まれになった

休 憩

Cantate Domino canticum novum*Hans Leo Haßler(1564-1612)*

主に向かって新しい歌を歌え

Verleih uns Frieden genädiglich(SWV372)*Heinrich Schütz(1585-1672)*

我々に平安を恵み深く授けたまえ

Gib unsern Fürsten(SWV373).....*Heinrich Schütz(1585-1672)*

我らの領主たちと全ての政府に

Unser keiner lebet ihm selber(SWV374)*Heinrich Schütz(1585-1672)*

我らのうちの誰も自分自身のために生きる者はなく

Videntes Stellam Magi*Orlandus Lassus(1532-1594)*

星を見ながら東方の三博士たちは

Sei,lieber Tag,willkommen*Johann Michael Bach(1648-1694)*

いとしい日よ、ようこそ

待降節第一主日によせて

水野克彦

皆さん、今年のクリスマスはどんな予定を立てていらっしゃるでしょうか。一家団欒ですか、友達とパーティー？それとも一人で好き勝手に過ごすのかな。子供たちはサンタ・クロースが来るのを楽しみにしているでしょうね。とにかく皆それぞれ、目一杯に楽しみたいと思っているはず。でも、そもそもクリスマスってどんな日？—そりゃ決まっているよ、イエス・キリストの誕生をお祝いする日さ—そう、あなた正解！でも、なぜお祝いするのでしょうか。

人の一生には、嬉しく楽しい時もあれば労苦を味わう時もあります。しかし、どちらかというとならぬ労苦や悲しみのほうが多いような気がします。そして最後には死の恐れから逃れられません。人というものはいつとも不安から逃れられない、そんな存在なのでしょう。

人を造って魂を吹き込んでくれた創造主へ反逆した不義、それが生きる苦しみの根源である。そこで創造主は憐れんで救いの手を差し伸べられた。反逆の罪に対する刑罰を、創造主みずからが肩代わりして受けるという驚くべき方法で。創造主のほうから人へ和解の手を差し伸べるという、愛から出た不可思議な方法で。そしてその救いの業はイエス・キリストによって実現した。

イエスは神であるのに人として生まれ、人の喜怒哀楽をつぶさに味わい、人として罰を受け、十字架上に死なれた。しかし神として復活し、罪とその結果である死に勝利された。そしてこの世が終わるその日、再びイエスは来られる。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもは過ぎ去ったからである。（新約聖書ヨハネの黙示録 21 章 3~4 節）」それゆえキリストを**信仰**する者はキリスト再臨の**希望**と神の**愛**に生きるのである。

生まれる前からイエスには残酷な十字架刑が決まっていた。イエス・キリストの誕生は決して楽しいお祭り騒ぎではない。クリスマスの本質は「**信仰**と、**希望**と、**愛**（新約聖書コリントの信徒への手紙 13 章 13 節）」について心静かに思いめぐらすことである。

奇しくも今日は教会歴という待降節第一主日。待降節とは文字通り降誕を待つ時期のこと。クリスマスを迎える準備の期間に入ったのだ。主イエス・キリストがこの世に来られた理由を沈黙考しよう。…と、まあクリスチャンはこんな風に考えています。そして今宵、私どもが演奏に取り上げる作曲家たちは皆、クリスチャンでした。その時代、彼らの音楽を聞いた人々もクリスチャンでした。西洋音楽の土台とはそういうものだと思います。

今日、会場に足を運んでくださった皆様のなかには、このような宗教めいたお話を耳障りに感じられるお方もいらっしゃるかと思います。普通のアマチュア合唱団の演奏会には馴染まない内容を書いたかもしれません。どうかお赦しください。そして私どもの合唱も、どうか寛容な気持ちでお聞きください。心からお願ひ申し上げます。

正直に告白すると「いやあ、ア・カペラは難しい！しかもこんなに渋くて内容の深いプログラム相手では僕ら、力不足だあ！」

お後がよろしいようで。

クリスマスはラテン語では「in nativitate domini=主の誕生に」、ドイツ語では「Weihe=聖別+Nacht=夜」で「Weihnachten=聖別された夜」、英語では「Christ=キリスト」+「mass=集まり（あるいはミサ）」で「Christmas=キリストの下での集まり（ミサ）」、日本語では「降誕祭」という。

1552年（天文21年）日本で初めてのクリスマスが周防国山口でイエズス会宣教師コスメ・デ・トーレスと日本人信徒によって祝われた。そして世界で最初のクリスマス祝った人々は、言うまでもなく、お生まれになったイエスを見届けるために集まった羊飼いたちであり、黄金・乳香・没薬を捧げにやってきた東方の三博士たちである。

Andreas Hammerschmidt

アンドレーアス・ハンマーシュミット

(1611年または1612年-1675年)

バロック中期ドイツの作曲家、オルガニスト。ボヘミア出身。ザクセン州南東部のポーランド、チェコとの国境に近い「Zittau=ツィッタウ」のオルガニストとして活躍した。折しもドイツ全土を混乱に陥らせた三十年戦争（1618年-1648年）によって彼の音楽活動は妨げられ、深刻な打撃を被った。しかし戦後は再び高水準な音楽活動を続け、当時のドイツで最も知られた音楽家として尊敬された。400以上の作品が現存している。不思議なことに、オルガニストであったにもかかわらずオルガン作品は一つも残っていない。

Machet die Tore weit

門を広くせよ

Machet die Tore weit
und die Türen in der Welt hoch,
daß der König der Ehren einziehe.
Wer ist derselbige König der Ehren?
Es ist der Herr,
stark und mächtig im Streit.
Machet die Tore weit
und die Türen in der Welt hoch!
Hosianna dem Sohne Davids,
Hosianna in der Höhe.

門を広くし
世界の戸を高くせよ。
栄光の王が入場なさるからだ。
誰が栄光の王か。
それは主、
力強く権威をもって戦われる主だ。
門を広くし
世界の戸を高くせよ。
ダヴィデの子にホザンナ、
高きところではホザンナ。

(旧約聖書詩編 24 編 7~9 節)

Giovanni Pierluigi da Palestrina

ジョヴァンニ・ピエールイージ・ダ・パレストリーナ

(1525年頃-1594年)

ルネサンス後期イタリアの最も偉大な作曲家。ローマ郊外パレストリーナの町に生まれる。彼の音楽活動の場はほとんどローマであった。サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂楽長、サンタ・マリア・マジョレ大聖堂楽長、教皇庁ジュリア礼拝堂楽長を歴任。彼の膨大な作品には 104 のミサ曲、375 のモテット、12 の哀歌、そして 35 のマニフィカトが含まれる。彼の作曲技法は、滑らかな旋律と協和音を重

視した対位法によっており、それによって生み出される透明な響きは歌詞を明瞭に浮かび上がらせる。このような作風は典礼にふさわしいと教会に歓迎され、後世には「パレストリーナ様式」として教会音楽の規範とされた。

Canite tuba

ラッパを吹奏せよ

Canite tuba in Sion,
quia prope est dies Domini:
ecce venit ad salvandum nos.
Erunt prava in directa,
et aspera in vias planas:
veni, veni Domine, et noli tardare.
Alleluia.

シオンでラッパを吹奏せよ、
何故なら主の日が近いのだから。
見よ、我らを救うために主は来られる。
曲がったものはまっすぐに、
荒れ地は平坦な道になるであろう。
来てください、主よ、遅れないで下さい。
アレルヤ。

Heinrich Schütz

ハインリヒ・シュッツ

(1585年-1672年)

ヴェネツィア楽派の巨匠ジョヴァンニ・ガブリエーリに師事をして、イタリアで頂点に達していた対位法を学ぶ。そして、新しく興ったオペラ芸術の分野で大活躍をしていたクラウディオ・モンテヴェルディから大きな影響を受けて帰国した。帰国後はザクセン選帝侯のドレーズデン宮廷楽長に就任し、亡くなるまでその地位を全うした。彼はアンドレアス・ハンマーシュミット同様に三十年戦争の戦渦に巻き込まれ、音楽活動が妨げられる不幸も味わった。しかし長命であったので作品の数も多く、ドイツの音楽界に長く影響を与え続けた。

ところで、ルネサンスまでの音楽を支配していた対位法を一言で説明するならば「複数の旋律を同時に重ねた時に良好な響きを得られる最適な旋律を作り、組み合わせるための技法」といえる。しかし合唱の場合はこの対位法の特性が災いする場合がある。つまり歌詞が複数で同時に歌われることによって、言葉が明瞭に聴き取れない傾向に陥りやすいのである。ところが1600年ごろに創成されたオペラでは、言葉の発音を際立たせて意味と情感を直感的に伝えたいという要求から、従来の対位法とは根本的に異なった表現法であるモノディーという技法が確立された。モノディーでは、語るような節回しが歌詞に付けられ、簡素な和音で伴奏されていく。音楽に言葉がではなく、言葉に音楽が従うのである。シュッツの最も重要な業績の一つは、モノディー技法をドイツ語に適用したことである。それゆえにシュッツの音楽とドイツ語は決して切り離すことができない。

Die Himmel erzählen die Ehre Gottes (SWV 386)

天は神の栄光を語り

Geistliche Chormusik Op.11 1648 (Nr.18)

宗教的合唱曲集 Op.11 1648年 第18曲

Die Himmel erzählen die Ehre Gottes,
und die Feste verkündigt seiner Hände Werk.

天は神の栄光を語り、
天空は御手の業を伝える。

Ein Tag sagts dem andern,
und eine Nacht tuts kund der andern.
Es ist keine Sprache noch Rede,
da man nicht ihre Stimme höre.
Ihre Schnur gehet aus in alle Lande
und ihre Rede an der Welt Ende.

Er hat der Sonnen eine Hütten
in derselben gemacht,
und dieselbige gehet heraus
wie ein Bräutigam aus seiner Kammer
und freuet sich
wie ein Held zu laufen den Weg.
Sie gehet auf an einem Ende des Himmels
und läuft um bis wieder an dasselbige Ende,
und bleibt nichts für ihrer Hitz verborgen.

Ehre sei dem Vater und dem Sohn
und auch dem heiligen Geiste,
wie es war im Anfang,
jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit,
Amen.

日は次の日にそれを語り、
夜は次の夜にそれを知らせる。
それはどんな言語でも会話でもない、
なぜならその声は聞こえないのだから。
その琴線の響きは全ての国に達し、
その会話は世界の果てに至る。

神は太陽のために幕屋を
天へ設けられた、
太陽はその天蓋から外へ出ていく、
まるで花婿のように。
そして喜んで
勇士のように道を駆ける。
太陽は天の一方の端に昇り、
その果てまで同様に公転し、
何物もその熱から隠れ続けられない。

栄光、御父と御子にあれ、
また聖なる御霊にも。
始めにあったように、
今もいつまでも
そして永遠から永遠へ。
アーメン。

(旧約聖書詩編 19 編 1~7 節)

Leonhard Schröter

レオンハルト・シュレーター

(1532 年頃か 1540 年-1601 年頃か 1595 年)

ルネサンス後期ドイツの作曲家。マクデブルク大聖堂のカントル。この時代の最も優れたドイツ人作曲家の一人である。モテット、ドイツ語宗教歌曲、そしてクリスマス音楽と賛美歌を出版した。

Lobt Gott, ihr Christen, alle gleich

神を誉め讃えよ、汝らキリスト教徒らよ、皆等しく

1.
Lobt Gott, ihr Christen, alle gleich
in seinem höchsten Thron,
der heut schleußt auf sein Himmelreich
und schenkt uns seinen Sohn.

神を讃えよ、汝らキリスト教徒よ、皆等しく、
いと高き御座において。
今日、神は天国を開いて
我々に御子を贈られる。

2.
 Er kommt aus seines Vaters Schoß
 und wird ein Kindlein klein,
 er liegt dort elend, nackt und bloß
 in einem Krippelein.
3.
 Er äußert sich all seiner G'walt,
 wird niedrig und gering
 und nimmt an sich eins Knechts Gestalt,
 der Schöpfer aller Ding.
4.
 Heut schleußt er wieder auf die Tür
 zum schönen Paradeis,
 der Cherub steht nicht mehr dafür.
 Gott sei Lob, Ehr und Preis.
- 御子は父の懐から出て
 幼児となり、
 そこでみずぼらしく裸で横たわっておられる、
 飼い葉桶の中で。
- 御子は権力をすべて捨て、
 身分を低くし、
 しもべの姿を受け入れておられる、
 全ての被造物の創造者なのに。
- 今日、御子は再び扉を開かれる、
 美しいエデンの園の扉を。
 もはやケルビムはエデンの園を守ることもない。
 神に称賛と栄光と讃美あれ。

Johann Walther

ヨーハン・ヴァルター

(1496年-1570年)

宗教改革時代の作曲家、讃美歌作家、詩人。1524年に彼の編集になるプロテスタント・ルター派教会最初の讃美歌集「Geystliches gesangk buchleyn」がマルティン・ルターの序文付きで出版された。ヴァルターの作風は二種類に分けられる。一つはフランドル楽派のポリフォニー様式であり、ジョスカン・デ・ブレやハインリヒ・イザークの影響を受けている。他は模倣技法を使わないコラルであり、後世のドイツ・プロテスタント教会音楽後に多大な影響を及ぼした。

Joseph, lieber Joseph mein

ヨーゼフ、愛する私のヨーゼフ

Joseph, lieber Joseph mein,
 hilf mir wiegen mein Kindelein,
 Gott, der will dein Löhner sein
 im Himmelreich,
 der Jungfrau Kind Maria.

Eia, eia.
 Virgo Deum genuit,
 quem divina voluit clementia.
 Omnes nunc concinite,

ヨーゼフ、愛する私のヨーゼフ、
 私の赤ちゃんをあやすのを手伝って。
 神様があなたに報われるでしょう、
 天国で。
 乙女マリアの子。

いざいざ。
 乙女が神を産んだ、
 神の慈悲が望んだお方を。
 全ての人々よ、今こそ共に歌え、

nato regi psallite,
voce pia dicite:
sit gloria Christo nostro infantulo.
Hodie apparuit in Israel,
quem praedixit Gabriel,
est natus Rex.

お生まれになった王に豎琴を弾け、
敬虔な声で語れ。
我らのキリストである幼子に栄光あれ。
今日イスラエルに現れた、
大天使ガブリエルが予告した幼子が、
お生まれになった王がおられる。

Peter Philips

ピーター・フィリップス

(1561年-1628年)

エリザベス朝からジャコビアン時代にかけてのイギリスの作曲家。ロンドン生まれ。少年時代にはセント・ポール大聖堂少年聖歌隊に所属したが、カトリック信者であった彼は信仰を貫くためにヨーロッパ大陸へ逃れた。そしてローマへ留学してパレストリーナとアネリオに師事する。ローマとアントワープで活動したのち、ブリュッセルの王室礼拝堂でアルバート公のオルガニストとして活躍した。

O beatum et sacrosanctum diem

おお、祝福された至聖の日に

O beatum et sacrosanctum diem,
in qua Dominus noster de Virgine Maria
pro nobis nasci dignatus est.
Gaudeat itaque universus orbis,
et cantemus illi in sono tubae,

cithara, psalterio et organo.
congratulemur cum multitudine
angelorum exercitus
semper suas laudes cantantibus,
noe.

おお、祝福された至聖の日。
その日に我らの主は処女マリアから
我らのためにお生まれになった。
だから全世界は喜びなさい、
我々はラッパの響きの中で
全世界に演奏しよう、
ギター、ブサルテリウムとオルガンを。
我々是一緒に祝おう、おびたしい
天使たちの軍勢とともに
常に、我々が歌う誉め歌をもって。
ノエル。

Jacob Clemens non Papa

ヤーコプ・クレメンズ・ノン・パパ

(1510年から1515年の間-1555年または1556年)

盛期ルネサンスのフランドル楽派の作曲家。生い立ちは不明、生涯についても詳しく分からない。現在のベルギーかオランダの出身。「クレメンズ・ノン・パパ」は「ローマ教皇ではないほうのクレメンズ」という意味で、同時代のローマ教皇クレメンズ 7世と区別するために付けられた愛称。実名は「Jacques Clément=ジャック・クレマン」。同時代の多くの作曲家とは違って、彼の作風はイタリア音楽の影響を受けていない。おそらくイタリアとは没交渉の環境で活動していたためであろう。その意味で彼は生粋のフランドル楽派といえる。彼の音楽はとりわけドイツ語圏の作曲家に影響を与えた。特にラッススはその作品によく通じており、その作風の要素を取り入れている。

Pastores

羊飼いたちよ

Pastores, quidnam vidistis?
Annuntiate nobis
in terris quis apparuit.

羊飼いたちよ、一体何を見たのか。
私たちに知らせなさい、
その地方にどなたが現れたかを。

Natum vidimus,
et chorus angelorum
collaudantes Dominum et dicentes:
Gloria in altissimis Deo,
et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

私たちは子供を見ました、
そして天使たちの合唱が
主と共に讃美して言うのを。
「栄光が至高の神に、
地には善意の人たちに平和」と。

(新約聖書ルカによる福音書 2 章 13~14 節)

Heinrich Schütz

ハインリヒ・シュッツ

(1585年-1672年)

Ein Kind ist uns geboren (SWV 384)

一人の御子が我らのためにお生まれになった

Geistliche Chormusik Op.11 1648 (Nr.16)

宗教的合唱曲集 Op.11 1648年 第16曲

Ein Kind ist uns geboren,
ein Sohn ist uns gegeben.
Welches Herrschaft ist auf seiner Schulter,
und er heißt Wunderbar, Rat, Kraft, Held,

ewig Vater, Friedefürst,
auf daß seine Herrschaft groß werde
und des Friedes kein Ende
auf dem Stuhle David
und seinem Königreiche,
daß ers zurichte und stärke
mit Gericht und Gerechtigkeit
von nun an bis in Ewigkeit,
solches wird tun der Eifer des Herren Zebaoth.

一人の子が我々に生まれ、
一人の息子が我々に与えられる。
その統治権は彼の肩の上にあり、
彼は、驚嘆すべき人、助言者、
力ある者、勇士、
永遠の父、平和の主と呼ばれる。
彼の支配が大きくなり
平和に終わりがなく、
ダヴィデの椅子と
彼の王国の上には。
その王国を彼が整えて強める、
審判と正義をもって
今より後、永遠に。
万軍の主の熱意がそのように
なさるであろう。

(旧約聖書イザヤ書 9 章 5~6 節)

ヤン・ピーテルスゾーン・スウェーリンク

(1562年-1621年)

ルネサンス末期からバロック最初期にかけて活躍したオランダの作曲家。アムステルダムのカルヴァン派教会「Oude Kerk=旧教会」オルガニスト。ネーデルラント鍵盤楽派の頂点を極めたその作品は、洗練された対位法においてバッハ以前の鍵盤音楽を代表している。教育者としても有名であり、門人からは次世代の北ドイツ・オルガン楽派を担うヤーコプ・プレトリウスやハインリヒ・シャイデマン、ザムエル・シャイトなどの重要な音楽家を輩出している。またフランドル楽派の流れを継ぐ音楽家として声楽曲の分野にも力量を発揮し、250曲以上を残している。スウェーリンクの「Hodie Christus natus est=今日、キリストがお生まれになった」は彼の友人であったピーター・フィリップスの「O beatum et sacrosanctum diem=おお、祝福された至聖の日に」を手本にしている。Hodie Christus natus est は1619年にアントワープで印刷された「Cantiones sacrae cum basso continuo ad organum=オルガンによる通奏低音付き聖歌集」の第13番として収録されているが、ことによるとこの曲集はフィリップスの助けを得て出版されたかもしれない。フィリップスが懇意にしていた同じ発行人によって出版されたからである。

Hodie Christus natus est

今日、キリストがお生まれになった。

Cantiones sacrae cum basso continuo ad organum 1619 (No.13)

オルガンによる通奏低音付き聖歌集 1619年 第13曲

Hodie Christus natus est.	今日、キリストがお生まれになった。
Noe.	ノエル。
Hodie Salvator apparuit.	今日、救い主が現れた。
Alleluia.	アレレヤ。
Hodie in terra canunt angeli.	今日、地では天使たちが歌い、
Laetantur archangeli.	大天使たちは歓喜する。
Noe.	ノエル。
Hodie exultant justi dicentes:	今日、義人たちは讃美して小躍りする、
Gloria in excelsis Deo,	「天には神に栄光」と。
Alleluia, Noe.	アレレヤ、ノエル。

(新約聖書ルカによる福音書2章13-14節)

Hans Leo Haßler

ハンス・レーオ・ハスラー

(1562年頃-1612年)

後期ルネサンスのドイツの作曲家。ヴェネツィア楽派が豪華絢爛な複合唱様式の音楽を繰り広げていたイタリアのヴェネツィアで学ぶ。ドイツに帰国後はアウクスブルク、ニュルンベルク、ウルムと活動拠点を移し、最後に短期間ではあるがドレーズデン宮廷礼拝堂のオルガニストを務めた。ちなみにハスラー没後はミヒャエル・プレトリウスとハインリヒ・シュッツがその後任に就いている。

ハスラーはヴェネツィア様式をドイツに伝えた最初の作曲家の一人である。ハスラーや後輩のシュッツのような音楽家がコンチェルトや複合唱の様式、ヴェネツィア楽派の自由な情緒表現をドイツ音楽に

植えつけ、イタリア以外で最初の最も重要なバロック音楽の発展をドイツにもたらしたのである。

Cantate Domino canticum novum

主に向かって新しい歌を歌え

Cantiones sacrae 1591

聖歌集 1591年

Cantate Domino canticum novum,
cantate Domino omnis terra.

Cantate Domino et benedicite nomini eius,
annunciate de die in diem salutare eius,
annunciate inter gentes gloriam eius,
in omnibus populis mirabilia eius.

Quoniam magnus Dominus
et laudabilis nimis,
terribilis est super omnes deos.

主に向かって新しい歌を歌え、

主に向かって歌え、全地よ。

主に向かって歌え、その御名を讃美せよ、

日から日へと主の救済を告知せよ、

国々に主の栄光を告知せよ、

全ての民に主の驚くべき御業を告知せよ。

なぜなら大いなる主、

そして大いに讃美されるお方、

全ての神々を超えて畏敬すべきお方であるから。

(旧約聖書詩編 96 編 1~4 節)

Heinrich Schütz

ハインリヒ・シュッツ

(1585年-1672年)

Verleih uns Frieden genädiglich (SWV 372)

我々に平安を恵み深く授けたまえ

Geistliche Chormusik Op.11 1648 (Nr.4)

宗教的合唱曲集 Op.11 1648年 第4曲

Verleih uns Frieden genädiglich,
Herr Gott, zu unsern Zeiten,
es ist doch ja kein ander nicht,
der für uns könnte streiten,
denn du, unser Gott, alleine.

我々に平安を恵み深く授けたまえ、

主なる神よ、この時代に、

我々のために戦うことができるお方は

あなた以外には決して誰もいません、

なぜなら、あなたは我らの神、唯一の

お方だからです。

(交唱「主の平和を与えたまえ」のマルティン・ルターによるドイツ語訳)

Heinrich Schütz

ハインリヒ・シュッツ

(1585年-1672年)

Gib unsern Fürsten und aller Obrigkeit (SWV 373)

我らの領主たちと全ての政府に

Geistliche Chormusik Op.11 1648 (No.5)

宗教的合唱曲集 Op.11 1648年 第5曲

Gib unsern Fürsten und aller Obrigkeit	我らの領主たちと全ての政府に
Fried und gut Regiment,	平和と良き統治を与えたまえ、
daß wir unter ihnen	我らが彼らの下で
ein geruhig und stilles Leben führen mögen	静かで平穏な生活を送れますように、
in aller Gottseligkeit.	全き信心のうちに。
Amen.	アーメン。

(新約聖書テモテへの手紙一2章2節)

Heinrich Schütz

ハインリヒ・シュッツ

(1585年-1672年)

Unser keiner lebet ihm selber (SWV 374)

我らのうちの誰も自分自身のために生きる者はなく

Geistliche Chormusik Op.11 1648 (Nr.6)

宗教的合唱曲集 Op.11 1648年 第6曲

Unser keiner lebet ihm selber	我らのうちの誰も自分自身のために
	生きる者はなく、
und keiner stirbet ihm selber.	我らのうちの誰も自分自身のために
	死ぬ者はない。
Leben wir,	我々が生きるのは、
so leben wir dem Herren.	それは主のために生きるのだ。
Sterben wir,	我々が死ぬのは、
so sterben wir dem Herren.	それは主のために死ぬのだ。
Darum wir leben oder sterben,	それゆえに生きるにせよ死ぬにせよ、
so sind wir des Herren.	我々は主のものである。

(新約聖書ローマの信徒への手紙14章7~8節)

Orlandus Lassus

オルランドゥス・ラッスス

(1532年-1594年)

後期ルネサンスのフランドル楽派の作曲家。ローマ楽派のパレストリーナと並んで、16世紀末のヨーロッパでは最も有名で影響力のある作曲家であった。21歳の若さでローマのサン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂楽長に就任する名誉を得るが、1年後にはパレストリーナに後任を譲ってしまう。そのうちミュンヘンのバイエルン公アルブレヒト5世の宮廷楽長となり、その後継者ヴィルヘルム5世まで君主二代にわたって仕え、生涯を終えた。ラッススの名声が高まるにつれて、彼の教えを仰ぎようと門を叩く者も現れた。ヴェネツィア楽派を主導するアンドレーア・ガブリエーリも師事している。しだいにラッススの名声は音楽界の外にも広まるようになり、作曲家としては異例の待遇であるが、1570年には神聖ローマ帝国皇帝マクシミリアン2世から貴族に叙列された。1571年には教皇グレゴリオ13世より教皇庁騎士に叙任

され、黄金拍車勲章を授与された。この勲章の作曲家への授与は、それから200年後にモーツァルトに対してなされただけである。ラッススは全部で2000あまりの作品を残し、しかもラテン語、フランス語、イタリア語、ドイツ語によるあらゆる曲種の声楽曲を作曲している。彼は後期ルネサンスで最も多作、かつ世界的な作曲家であった。

Videntes stellam magi

星を見ながら東方の三博士たちは

Sacrae cantiones 1562 (No.4)

聖歌集 1562年 第4曲

(顕現節)

Videntes stellam magi
gavisi sunt gaudio magno:
et intrantes domum,
invenerunt puerum,
cum Maria, matre eius,
et procidentes adoraverunt eum.
Et apertis thesauris suis,
obtulerunt ei munera:
aurum, thus, et myrrham.

星を見ながら東方の三博士たちは
大いに喜び、
そして家に入って
男の子に会った、
母であるマリアと共にいる男の子に。
そして、ひれ伏してその子を拝んだ。
そして三博士たちは宝物を開けると
男の子に贈り物を捧げた。
黄金、乳香、そして没薬を。

(新約聖書マタイによる福音書2章1~12節)

Johann Michael Bach

ヨーハン・ミヒャエル・バッハ

(1648年-1694年)

バロック中期ドイツの作曲家。楽器製作者。中部ドイツ、テューリングゲンの町「Gehren=ゲーレン」のオルガニスト兼事務官になり、亡くなるまでそこで生活した。チェンバロを含む楽器も製作した。特筆すべきは、彼があの大バッハの最初の妻「Maria Barbara=マリーア・バルバラ」の父であったということである。つまり「Johann Sebastian Bach=ヨーハン・ゼバスティアン・バッハ」の義父にあたる。

ヨーハン・ミヒャエル・バッハの最も力強い作品群はコラール・モテットである。聖書のテキストを音楽的に朗唱する自然な様式を持ち、広く一般に称賛された。彼のモテットはホモフォニックで古風な傾向であるが念入りに作られており、ハインリヒ・シュッツに強く影響を受けている。また彼の広範囲なオルガン・コラールの作品群は、簡潔な四声対位法を使う点で「Pachelbel=パッヘルベル」の様式から影響を受けている。これらの楽曲は特に若きヨーハン・ゼバスティアン・バッハに影響を与えたと考えられる。

Sei, lieber Tag, willkommen

いとしい日よ、ようこそ

(新年の音楽)

Sei, lieber Tag, willkommen,

いとしい日よ、ようこそ、

willkommen sei du heut!
Heut freuen sich die Frommen,
die Frommen, die allzeit,
allzeit den großen Gott,
Gott, ihren Schöpfer loben,
ihn loben hoch dort oben,
erlöst aus aller Not.

Denn an dem Tage brachte
der liebste Gottessohn,
was Freude bei uns machte,
aus seinem Himmelsthron:
ein schönes neues Jahr,
Glück, Heil und allen Segen
zu Wegen und zu Stegen
der ganzen Christenschar!

Drum kommt, ihr Christenbrüder,
kommt her an diesem Tag,
kommt, fällt für Jesu nieder:
damit es euch behag!
Kommt, dankt und bittet ihn,
daß er in diesem Jahre
euch väterlich bewahre
und tue wie vorhin!

Laßt eure Stimmen hören,
laßt klingen Saiten (Pfeifen) drein,
lobt ihn mit vollen Chören,
laßt alles fröhlich sein!
Singt, singet eurem Gott,
singt, lobet, danket, betet,
vor euren Jesu tretet,
er schützt vor Not und Tod!

ようこそ君よ、今日という日！
今日、信心深い者たちは喜び、
信心深い者たちは常に、
常に大いなる神を、
彼らの創造者なる神を誉め称え、
神をかの高みで誉め称える、
神は全ての苦悩から解放してくださるのだから。

なぜならその日に
愛する神の御子が、
我々のもとに喜びを
天の御座からもたらしたのだから。
美しく新しい年、
幸せ、平安とすべての祝福が
至る所へ、
全キリスト教徒の群れの至る所へと！

それゆえ来たれ、汝らキリスト教徒の兄弟よ、
この日にこちらへ来たれ、
来て、イエスに跪け、
そうするのがお前たちに好ましいのだから！
来たれ、彼に感謝して願え。
彼がこの年に
お前たちを父のごとく守り、
かつてと同様におこなってくださるようにと！

お前たちの声をお聞かせせよ、
そこで弦楽器を鳴らせ、
全合唱で彼を誉めよ、
すべての者たちを喜ばせよ！
歌え、お前たちの神に歌え、
歌え、誉めよ、感謝せよ、願え、
お前たちのイエスのみ前へ歩み出せ、
彼は苦しみと死から守ってくださるのだ！

演奏会の記録

	開催年月	主な演奏曲目	指揮	会場
第1回	1981.02	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	寺村博司	石橋メモリアル
第2回	1981.11	ヘンデル(メサイア)	渡辺央己	中央会館
第3回	1982.11	フォーレ(レクイエム)、ジョスカン・デ・プレ、シュッツ	鈴木 優	東京カテドラル
第4回	1983.09	モーツァルト(戴冠式ミサ)、ヴィクトリア	黒岩英臣	東京カテドラル
第5回	1984.09	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	黒岩英臣	東京カテドラル
第6回	1985.10	J.S.バッハ(カンタータ106)、ブクステフーデ、ハスラー	宮本昭嘉	石橋メモリアル
第7回	1986.10	モーツァルト(グローセミサ)、ヴィクトリア	鈴木 優	緬馬文化センター
第8回	1987.10	シュッツ、ハスラー(ミサ・セクンダ)	鈴木 優	石橋メモリアル
第9回	1988.12	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、J.ハイドン	齋藤明生	駒場エミナス
第10回	1989.11	モーツァルト(レクイエム<バイヤー版>)	齋藤明生	緬馬文化センター
春の小演奏会	1990.05	ジョスカン・デ・プレ(パンジェ・リングワ)、ハスラー	齋藤明生	石橋エオリアン
第11回	1991.02	モーツァルト(リタニア 243)、J.M.ハイドン(ヴェスペレ)	齋藤明生	石橋メモリアル
第12回	1991.11	モーツァルト(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ)	齋藤明生	川口リアアホール
第13回	1992.11	シャルパンティエ(真神のミサ)、シュッツ、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第14回	1993.11	モーツァルト(ミサ・プレヴィウス275)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
15周年記念	1994.11	モーツァルト(レクイエム<ドルース版>)渋谷混声と合同	齋藤明生	新宿文化センター
第15回	1995.10	J.S.バッハ(カンタータ 182)、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第16回	1996.11	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
第17回	1997.10	モーツァルト(ミサ・ソレムニス 337、テデウム・ラウドムス)	齋藤明生	石橋メモリアル
第18回	1998.10	J.S.バッハ(カンタータ 61・196)、D.スカルラッチェ	齋藤明生	石橋メモリアル
第19回	1999.10	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、J.M.ハイドン	齋藤明生	石橋メモリアル
斎藤先生追悼	2000.07	ハスラー、メンデルスゾーン、ホミリウス	水野克彦	同ニキリスト教会
クリスマス	2000.12	四つのアヴェマリア(アルカデルト、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、パレストリーナ)	水野克彦	旧上野奏楽堂
第20回	2001.11	モーツァルト(トリニターティス・ミサ)、J.ハイドン	水野克彦	石橋メモリアル
第21回	2002.10	ドイツ・バロック(J.C.F.バッハ、シュッツ、ブクステフーデ)	水野克彦	所沢文化センター
第22回	2003.11	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、アルブレヒツベルガー	水野克彦	ルーテル榕センター
第23回	2004.10	D.スカルラッチェ、パレストリーナ、モンテヴェルディ	水野克彦	カトリック麻布教会
第24回	2005.11	シュッツ、テレマン、ブクステフーデ(カンタータ)	水野克彦	カトリック麻布教会
第25回	2006.11	レヒナー(受難曲)、ゼレンカ(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第26回	2007.10	ブクステフーデ(カンタータ 6曲)	水野克彦	カトリック麻布教会
第27回	2008.11	5人のヨーハン(J.S.バッハとその親戚4人)	水野克彦	カトリック麻布教会
第28回	2009.10	メンデルスゾーン、J.ハイドン(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第29回	2010.11	シュッツ、シャイン、シャイト、ブクステフーデ、ブルーンス	水野克彦	同ニキリスト教会
第30回	2011.10	歴代「トーマス・カントル」のバッハ以外の名曲集	水野克彦	日暮里サニーホール
第31回	2012.10	シュッツ、ブクステフーデ(メンブラ・イエズ・ノストリ)	水野克彦	同ニキリスト教会
第32回	2013.12	16~17世紀のクリスマスと新年の名曲	水野克彦	同ニキリスト教会
第33回	2014.11	シュッツ(ムジカリッシェ・エクゼクイエン)ほか(予定)	水野克彦	同ニキリスト教会

東京アマデウス合唱団のご案内 (2013.12 現在)

少人数に適したルネッサンスやバロック時代の宗教曲を積極的に取上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い、隠れた名曲を歌ってみたい方が集まった合唱団であります。

今後の活動予定は下記の通りですが、少人数のバロックのアンサンブルと一緒に楽しみたい方や興味のある方は、下記をご参照下さい。

(事務局 大久保ルミ子)

来年の演奏会「第 33 回定期演奏会」

「日 時」 2014 年 11 月 3 日<月・祝>

「会 場」 同仁キリスト教会礼拝堂

「演奏曲目」 Heinrich Schütz の

Musikalisch Exequien(SWV279~281) ほかを予定

<http://homepage2.nifty.com/Amadeus/>

見学ご希望の方へ(必ず、上記へメール又は下記へ電話でご連絡の上、お出で下さい)

お問い合わせ先 辻村 順子 048-476-4056

大久保ルミ子 03-3960-7714

練習日 毎週水曜日 午後 6 時半～9 時
練習場所 同仁キリスト教会美登里幼稚園 2F
指導者 水野克彦
会 費 月 額 5 千円(学生半額)
入会金 1 千円

(練習場所への交通案内)右図参照

* 地下鉄有楽町線

「護国寺」駅下車 6 番出口から徒歩 5 分

* JR 山手線「目白」駅よりバスで

「目白台 3 丁目」下車 徒歩 3 分



* 地下鉄有楽町線「護国寺」下車 6 番出口から徒歩 5 分
* JR 山手線「目白」駅よりバスで「目白台 3 丁目」下車 徒歩 3 分

NO COMPOSER
PHOTO AVAILABLE



Jacob Clemens non Papa
(1510-1555)



Giovanni Pierluigi da Palestrina
(1525-1594)



Orlandus Lassus
(1532-1594)

NO COMPOSER
PHOTO AVAILABLE

Leonhard Schröter
(1540-1595)



Peter Philips
(1561-1628)



Jan Pieterszoon Sweelinck
(1562-1621)



Hans Leo Haßler
(1564-1612)



Heinrich Schütz
(1585-1672)



Andreas Hammerschmidt
(1612-1675)



Johann Michael Bach
(1648-1694)



同仁キリスト教会礼拝堂

Tokyo Amadeus Chorus

Since 1980